

校長先生の初恋物語

第18話 とっくんの奇跡

さあ、たいけつが始まりました。ボールをさいしょにキャッチしたのは足長君です。「キャーッ。かっこいー。足長くーん！」ファンの女の子たちの黄色いかんせいがあがります。そんな女の子たちの方を向いて、笑顔を見せます。女の子たちはさらにもり上がります。

「キャーッ。笑顔がすてきーっ。」

足長君は、まるでジャーニーズです。

ドッジボールコートのみわりには、たくさんの方があつまっていました。そのほとんどは、足長君のおうえんです。マンモス小学校のスーパースターが、とっくんに勝つしゅんかんを見たいのです。

でも、とっくんのおうえん団もいます。小さな小さなおうえん団です。ダンプさん、きんに君、よしこさんの三人だけですが、大おうえん団にまけないよう、3人は大きな声でとっくんをばげまくれています。

「とっくん、足長君にまけたら、ぶっとばすからねー。」

これはもちろん、ダンプさん。

「ガンバレダヨー。あちよー。アタタタタタタ。」

これは空手が好きなきんに君。

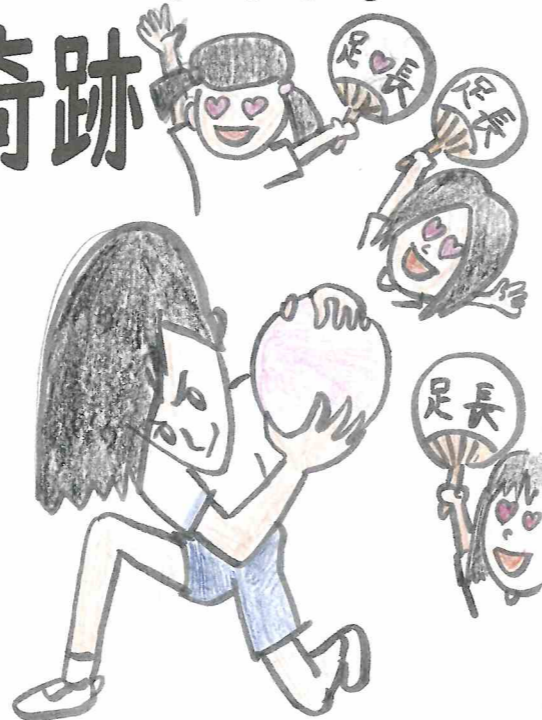
「とっくん、がんばってね♥」

そしてこれが、愛するよしこさん。たった三人だけですが、とっくんにとっては、力がわいてくるうれしいおうえんです。

しかし、足長君のいかりのスイッチはオンになりました。よしこさんがとっくんをおうえんしているのが気に入らないのです。さっきまでのさわやかな姿はどこかに消えて、ついに本当のすがたを現してきました。

足長君は、もはや人間ではありませんで

ガンバレー!!
とっくーん♥



した。よしこさんをとっくんに取られたといういかりが、足長君を変えてしまいました。そして、いかりのエネルギーをすべてボールにこめて、見たこともないようなスピードボールを投げてきました。足長君が本気でボールを投げるのをみんな初めて見ました。いつも投げているボールだって、そうとうはやいのですが、本気で投げたボールははやすぎてボールがうまく見えません。さらには、「ごごーっ。」とすごい音もしています。手でキャッチしたら、手の皮がめくれてしまいそう。顔に当たってしまったら、100%鼻血ぶー。きんに君の「きんにくもりもりボール」なんて、スローボールに感じてしまいます。

にげるつもりはなかったのに、どうどうとたたかうつもりだったのに、あまりにもすごすぎて、とっくんはコートの中をにげまわることしかできません。でも、足長君のボールに当たらないというだけでも、とっくんにとっては奇跡みたいなものです。

すると、足長君が、いやみたっぷりでした。

「弱虫とっくん、にげてばかりじゃないか。そんなんじゃ、勝負にならないぜ！」

そう言われても、にげるしかできません。

とっくんと同じチームの人たちが、つぎつぎに足長君のえじきになっていきました。とっくんは、ただひたすらにげつづけて、体力のげんかいが近づいていました。気がつくのと、とっくんのチームは、ぜんいんが当てられて外野に行き、残るはとっくん一人となっていました。



こうなると、すべてのボールがとっくんに向かってくる。とっくんは、なんとか当てられないよう、にげ続けました。足長君から「弱虫。」と言われても、ばかにされても、とにかくにげました。にげて、にげて、にげて、にげて、そして、なんと、とっくにさいだいのピンチが来てしまいます。にげて、つかれきったとっくんにおそいかかるピンチとは……



次回予告

これが本当の足長君だったのか